

# 学生と教員の見方



【学生プロフィール】  
音楽を聴くこと・パソコンゲームが趣味です。休みの日は映画館に行ったり、音楽を聴いたり、パソコンゲームをしています。

もが利用しやすい交通ネットワークを構築していくことが重要である。

## 【教員による展開】 (西村愛准教授)

宇都宮市でLRTの導入が構想され始めたのは1990年代のことである。当時、特に宇都宮駅の東側で深刻化していた車の渋滞問題を解消するため、新たな交通システムとして、欧州で注目を浴びていたLRTの計画が具体化されたのである。また、LRTの導入によって、渋滞緩和に加え、衰退した中心市街地の活性化も期待された。

【学生の見方&考え方】  
(3年 渡邊琉哉)

自動車依存は大気汚染や二酸化炭素排出量の増大、交通渋滞、更には交通事故といった環境・社会問題を引き起こしている。これを解決するためには、自動車以外の移動手段を強化し、誰もが安心して利用できる公共交通を整備する必要がある。その一つの有効な手段として注目されているのがLRT (Light Rail Transit) だ。

定期性や快適性、バリアフリー対応などの評価が高く、特に高齢者などにとっては移動手段の選択肢が増えることが利点となっている。日本ではまだ導入事例が少ないが、23年8月に宇都宮市で全国初のLRTが開業した。開業から1年で、JR宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地までの所要時間がピーク時で最大15分短縮され、交通便利性が大幅に向上した。経済面でも沿線の地価上昇や土地活用の促進、停留所周辺の歩

的運営を考える上での課題といえる。それでもLRTは地下鉄と比較して建設コストが低いなどの強みを持ち、バスと比べても定時性が高く排ガスを排出しない点で環境に優しい。従って、LRTは持続可能な社会の実現に向けて導入を進める価値が大きいと考える。ただし、LRTだけで都市全体の交通を担うことは難しいため、バスや自転車シェア、運賃体系の工夫などと連携し、誰もが利用しやすい交通ネットワークを構築していくことが重要である。

## 環境にやさしいまちづくり③

# 環境・社会問題解決の一手

翻って日本の地方都市の現状をみると、高齢化や中心市街地の衰退の問題が深刻であり、加えて気候変動にも対応したまちづくりが必要となっている。LRTのみがそれらに対する解ではないが、フランスの事例を鑑みれば、日本の地方都市での諸課題を解決する策としても期待される。

海外では既に多くの都市で導入が進み、交通渋滞の緩和や交通事故率の減少、環境負荷の軽減などの効果を上げている。利用者にも

か、用地利用の制約を生じさせる場合がある。更に、車両やメンテナンスなどの維持費、人件費や電力費といった運行コストも無視できない。これらは安全で安定した運行のために必要不可欠な出費であるが、持続系の工夫などと連携し、誰もが利用しやすい交通ネットワークを構築していくことが重要である。

翻って日本の地方都市の現状をみると、高齢化や中心市街地の衰退の問題が深刻であり、加えて気候変動にも対応したまちづくりが必要となっている。LRTのみがそれらに対する解ではないが、フランスの事例を鑑みれば、日本の地方都市での諸課題を解決する策としても期待される。